

資料B

あなたならどうする？

場面1

(小学校中学年用)

「うわさで聞いたんだけど、市内の〇〇地区でコロナウイルスの感染者が出たらしいよ。」

「ほんとに？ 〇〇地区の人たち、明日から全員学校に来ないでほしいわ」

「そうだよ。そういえば、今日、Aさん、授業中にせきをしてたけど、Aさんって〇〇地区だよ。コロナだったりして。」

「こわい～！もし学校で、感染者が出たら〇〇地区の人のせいだよね。」

「明日から〇〇地区の人には近づかないようにしましょうよ。」

この会話について、あなたはどのように思いますか？

指導のポイント

絶対にやっていけないことは、偏見や誹謗中傷（まちがった知識や考え方による嫌がらせや悪口）である。効果的な治療法が確立されていない中、新型コロナウイルス感染症に感染するリスクは誰にでもあり、感染したくて感染する人はいない。感染者や感染者が出た地域に対し、誹謗中傷や差別的な行為を行うことの方が人として問題である。

場面2

(中学年、高学年・中学校共通)

もし、友だちから「新型コロナウイルス感染症にかかっていたAさんが、明日から登校してくるそうだよ。」と言われたら、あなたはどのように答えますか。

指導のポイント

「一緒に遊んでもだいじょうぶかな？」「近づいても大丈夫かな」など不安をもつ児童生徒に対しては、専門機関の検査等で安全が確かめられており、問題がないことを確認する。

さらに、Aさんの立場に立たせ、感染者も好きで感染したわけではないことやAさんの登校前の気持ち（「学校で何か言われないうらやまがあるか」といった不安等）を考えさせることも必要である。学習者が自分自身も感染する可能性はあることを示唆すれば、感染者の気持ちも理解しやすい。

また、偏見や誹謗中傷については、そのことを恐れて発熱など感染の疑いがあっても医者にかからず、かえって感染が広まる可能性があることを示唆する。

※指導にあたっては、ワークシートを活用したり学習集団を工夫したりするなど発達段階や学級の実態に合わせた対応をお願いします。